

「紅白歌合戦」お化け番組の仕組み

新年あけましておめでとうございます。本年も相変わらずよろしくお願い申し上げます。関東地方では新年は好天に恵まれ、またカレンダーの並びのおかげで長い連休を楽しまれた方も多いのではないのでしょうか。私は年内は趣味のオーディオ三昧でした。年が明けて両実家にあいさつに



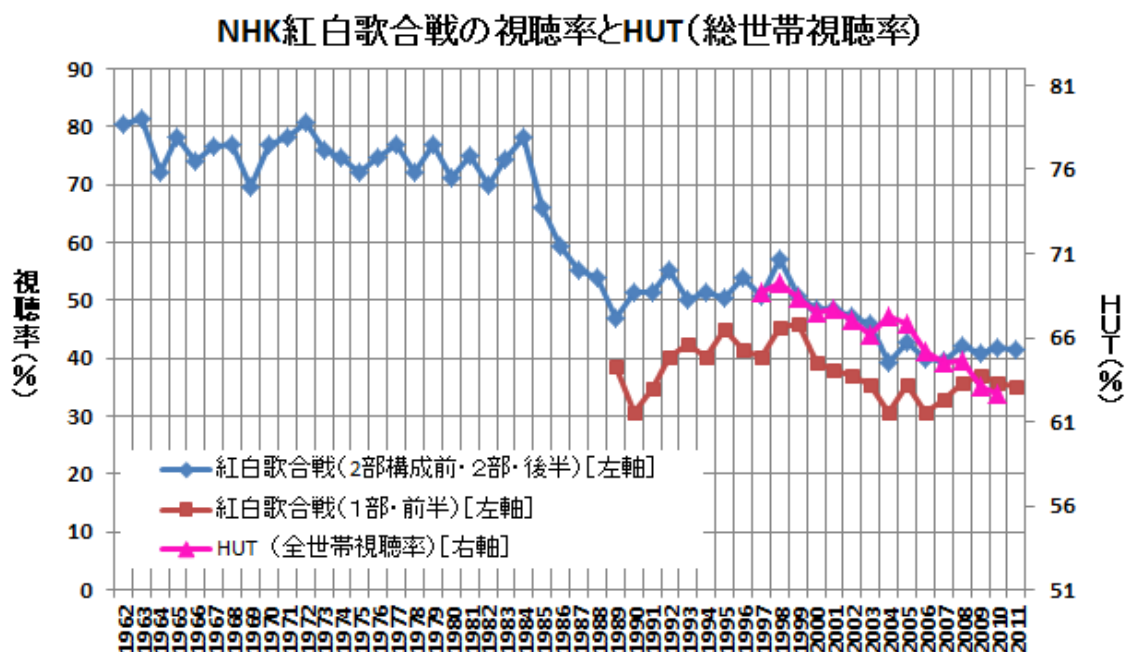
行った以外はほぼ籠りきりでした。何しろ寒い。北の国にお住まいの方に言わせれば「そんなの寒いうちに入らない」と言われそうですが、やっぱり寒い。ちょっと風が吹いただけで震え上がります。今日久しぶりに会社に出てみると室温は12度。やっぱり寒いですね。



さて、今回はあの「紅白歌合戦」について考察をしてみようと思います。大晦日の一大イベント。毎年の視聴率ランキングのトップの常連。まずその歴史を振り返ります。第1回は1952年お正月のラジオ番組がそのスタートでした。そうそのころにはまだテレビ放送がされていませんでした。第4回からテレビ（まだ白黒です）が加わり第15回からカラー放送されています。番組のコンセプトは、「その年を代表する女性アーティストを紅組（あかぐみ）、男性アーティストを白組（しろぐみ）に分け、対抗形式で歌や演奏を披露し、最終的には投票によって勝ち負けを決める」今どき男女を分けて優勝を決めるというコンセプトそのものに首をかしげます。しかもその勝ち負けを付ける、選択基準は曖昧です。全体を通じてどちらが優れていたかを判定することができるのでしょうか。私なら出来不出来にかかわらず紅組を応援します。男ですから^_^;。しかもその番組の放映時間の長いこと。19:15~23:45分まで4時間半。歌番組単独としてはおそらく世界最長ではないでしょうか（途中ニュースで中断）。1989年から2部制となりましたが、これは労働基準法の関連で未成年者を21時以降に出演させることにNGが出たためです。したがって10代の歌手は第1部に出演することになっています。

毎回話題になるのはその視聴率です。第65回も第一部が35.1%、第2部が42.2%。年間のトップはワールドカップの日本対コートジボアール戦の47%には届きませんでしたが、異常ともいえる高さです。現在では通常のテレビ番組では10%取れればまずまず、15%を超えると大成功、20%は奇跡という水準ですから、いかに紅白歌合戦の視聴率が高いことが分かります。

しかしながら過去をたどってみると統計を取り始めた第13回大会はなんと80%（!!!）。あり得ません。グラフをご覧ください。1984年ごろまでは70~80%で推移しています。現在では考えられない数字であることは確かです。将来ワールドカップで日本が決勝に進出してもこの数字を超えることは難しいと思います。紅白歌合戦以外の番組で最も視聴率が高いのは平成に入ってからでは2002年日韓ワールドカップ「日本対ロシア」で66%です。歴史的に見れば東京オリンピックのバレーボール「日本対ロシア」が68%でした。スポーツを除けば記憶に新しい「半沢直樹」の44%が最高。いかに紅白歌合戦が異常な高視聴率であることが分かります。



もう一つすぐに分かることがあります1984年をピークに視聴率は長期低迷に入っています。1984年には「都はるみ」さんの最後のステージ（引退）が話題でした。それでも2000年までは50%超えをしていたのですがその後は40%を切るか切らないかというレベルです。それにしても40%超えという数字はやはりすごい。なぜこんなに高いのか。

一つには放送が大晦日の夜という特異日であることでしょう。日本の年中行事のうち最大のものは年末年始でしょう。その年を振り返り、来る年の多幸を祈る。年末が期末という企業も多かった。今は欧米の会計基準に合わせて経済は4月1日がスタートになっていますが、日本人の人



情、感情、慣習を支配しているのは年末年始、お正月です。今年はカレ

ンダーの並びがよく 9 連休となった方が多かったと思います。どんなに忙しくても大晦日には家族全員が集まって年越しをする、という風習は未だに強いものがあります。あの帰省ラッシュを乗り越えてまで実家に帰るという考え方は私にはありませんが、それでも意識します。母からは「今年はいつ帰ってくる？」という電話が入ります。「大晦日」と伝えると悲しげな声が返ってきます。家族が集まって年越しまで一緒に過ごすという習慣はもしかしたら「紅白歌合戦」が作ったのかもしれませんが。家族で集まって数時間を楽しむには「紅白」が最高の娯楽だったのです。お酒を飲みながら、帰ってきた家族と語り、新しい家族と絆を作るのには最高の **BGM**



だったのではないかと考えます。さらに翌日は確実に休みです。少々飲みすぎても怒られない日です。さらに 100 人もの歌手がいれば一人や二人はお好みもいるでしょう。そんな馬鹿話を通じて家族や一族をバインドする役目を果たしていたのが「紅白歌合戦」ではなかったのでは、と思います。また昔は娯楽が少なかった。そんな日本人にとって「紅白歌合戦」はぴったりの番組だったのです。

また、出場の歌手たちにとっても人生を左右するほどの大舞台でした。そこには選考される段階でのドラマが付け加えられました。演歌華やかかなりし時代は「紅白に一回出れば一生食っていける」ということを聞いた覚えがあります。レコード (CD) が売れなくても地方巡業で食っていけるという意味でした。

そんな紅白でしたが 1989 年に初めて 50% を切って以来長期低迷が続いています。私は大学進学のため 1977 年に一人暮らしを始めました。それ以来、紅白は見なくなりました。最近は大分変わりましたが当時の紅白は演歌の歌手ばかりと感じていました。調べましたが私が聴きたいと



思う歌手は一人、「山口百恵」様 だけでした。核家族化が進み、帰省の習慣も少なくなります。大きな休みもお正月以外にもゴールデンウィークや夏休みに分散しました。また娯楽も多様化し、「みんなでそろって見る紅白」という習慣はすたれはじめています。私は実家に帰った時は別の部屋で好きな「格闘技」を見るが多くなりました。私は音楽好きでオーディオに凝っていますが、紅白に出る歌手の CD は 1 枚もありません。あ、宇多田ヒカルは買いました。

NHK も指をくわえて見ているだけではありません。二部制にして、一部を若いアーティストに集中、二部はベテランを配置したりしましたが、低迷にストップがかかったわけではありません。今年の紅白は昨年父を亡くした母を心配し、最後まで付き合っていて見ました。もっともその時



間の半分はスマホでメールをチェックしたりゲーム (Candy Crush) をやっていたりしました。紅白では妖怪ウォッチからイカ大王と幅広く「皆様の NHK」を必死で演出をしていました。見ていて痛々しいくらいに。最初に書きましたが NHK のコンセプト「その年を代表する女性アーティストを紅組、男性アーティストを白組に分け、対抗形式で歌や演奏を披露し、最終的には投票によって勝ち負けを決める」は明らかに破たんしています。特に演歌系は全滅と言っている。採点方法も審査員→会場→ネットと変化させています。今年で言うとう審査結果は以下のようになっています。私は知りませんでした、なんと民主化されているではありませんか。

| | 紅組 | 白組 |
|---------|----------|----------|
| デジタル TV | 364866 票 | 350757 票 |
| ワンセグ | 13006 票 | 18988 票 |
| アプリ | 102102 票 | 164245 票 |
| 会場審査 | 1247 票 | 1468 票 |
| 合計 | 481221 票 | 535458 票 |

審査員による権威知からネットや会場を通じた集合知に移行しています。この票数男女年代別に分析してみたいのですが、NHK さんは非公表してください。

いずれにしても紅白歌合戦が今後かつてのように 70~80% の視聴率を上げることは不可能でしょう。それは紅白という番組のせいではなく、テレビを中心とした情報行動が変化をしたからです。テレビは娯楽の王様という絶対的なポジションを失って久しい。今、テレビを見ているのはいわゆる高齢者です。お金がなく暇だけはある高齢者は昼間はジムに通い、夜は食事を見ながらテレビを見る、が最も安い生活です。

さて、今年の紅白ですが、私が聞いたことも見たこともないという歌手は以下の通りです。miwa、福田こうへいのお二人でした。曲を知らないのだと半分くらいは知りません。50 代後半としてはまあまあかもしれません。初めて曲を聞いていいなと思ったのが Sekai no Owari。とても新しさを感じました。サザンの桑田さんの「ピースとハイライト」には驚かされました。あぁいうアピールの仕方ってありなんですね。政治的な話題は書かないことしておりますので興味のある方は <http://www.uta-net.com/movie/150317/> でアクセスしてみてください。

さて、いかがでしたでしょうか。久しぶりに紅白を最後まで見ました。やはり私には無理。

お仕事も全力でお待ちしております。

株式会社アール・リサーチ 代表 柳本信一 Tel 042-300-0533 mobile 090-7428-8999
mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp